

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は研究申請課題名)	アジア諸国における献血者及び献血に関する多施設共同研究 (アジア諸国における献血者及び献血に関する多施設共同研究 (Multicenter study of Asian blood donors and donations))
研究期間 (西暦)	2020年9月～2022年6月
研究機関名	関東甲信越ブロック血液センター
研究責任者職氏名	副所長・津野寛和

※理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

アジア人は、欧米人と比較すると体格が小さく、そのため体内の血液量（循環血液量という）も少ないことは明らかである。わが国では安全な献血を実施するため、日本人の体格に適した献血基準を設けているが、他のアジア諸国では必ずしもそうではない。欧米の献血基準をそのまま適応している国もあり、また明確な基準が示されていない国もある。そのため、安全な献血ができていないか不明である。今回、オーストラリアのサンシャインコースト大学の Dr. Lin Fung を中心に、アジア地域の11か国の献血基準や献血者情報を収集し、比較検討することにより、アジア地域の現状を把握し、問題点を洗い出し、アジア人に適した献血基準を提案することを目的としています。より厳しい献血基準を設定しているわが国と欧米の基準を適応している国々などの情報を比較することにより、アジア諸国における献血基準の妥当性を検証し、最も適切な基準を提案することが可能になり、その結果、アジア地域における安全な献血体制の確立に貢献できます。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血者情報の提供については、すべて匿名化した（個人が特定できないように加工した）データを用います。提供するデータとして、献血者性別、年齢、血液型（ABO及びRh(D)）、ヘモグロビン（Hb）値、循環血液量、採血種別、採血量、体重、身長、直近12か月における献血回数、鉄剤摂取の有無、採血副作用の有無、血管迷走神経反射（VVR）の有無、直近12か月における採血副作用の有無、フェリチン値（ある場合）です。

- 3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名機関：University of the Sunshine Coast, Australia（オーストラリア）
研究責任者（職・氏名）：Associate Professor・Dr Yoke-Lin FUNG
分担内容：研究計画作成・データの収集、解析

4 研究方法《情報の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液等のヒト遺伝子解析：■行いません。 □行います。

《研究方法》

各国のデータを一つのデータベースにまとめ、全体のデータを統計解析します。また、国別の比較検討も実施します。

5 検査結果等の使用の拒否について

2019年1月～12月の期間に全国で献血された全ての献血者で、ご自身の献血者情報の使用を拒否される場合、以下問い合わせ先までご連絡ください。ただし、情報は匿名化して提供するため2020年10月30日までは、使用を拒否することが可能です。

6 上記5を受け付ける方法

メールにて使用拒否のご連絡を受け付けいたします。

本研究に関する問い合わせ先

所属	関東甲信越ブロック血液センター
担当者	津野寛和
電話	03-5534-7572
E-mail	h-tsuno@ktns.bbc.jrc.or.jp